

## 追悼文



### 原田和三郎先生を偲んで

原田和三郎先生追悼文

総合科学部



嶋屋 節子

1991年2月3日、名誉教授原田和三郎先生は肺炎のため89才で逝去されました。

1901年生まれの先生は、大正14年東京帝国大学文学部独逸文学科を卒業され、松江高等学校、佐賀高等学校教授を経て、昭和22年に広島高等師範学校教授として着任されました。その後、学制改革の波の中で、昭和26年3月から広島大学皆実分校教授、同34年5月から36年3月まで同分校主事及び大学評議員としての重責を果された。

特に同36年3月、皆実分校の千田地区への移転・統合の実現に際し、主事ならびに評議員として鋭意努力されるかたわら、大学にお

ける一般教育の理念形成とその具体化のために尽力されました。また、同35年の「60年安保改正」時に、先生は皆実分校主事として忍耐強く学生団体と対応し、学舎の平穩維持のために努力を惜しまれなかった。

先生は昭和25年11月に設立された日本独逸文学会中・四国支部の創設準備に寄与され、同33年から7年の永きにわたって支部長の重責を果され、同支部の充実に努められた。

昭和40年に広島大学教養部を停年退職された後、同59年まで岡山理科大学に奉職、通算59年の長きにわたってドイツ語教育に専念され、その高潔な人格を慕う人は数多い。



### 故 臼井朋包名誉教授追悼文

医学部 上田 一博

臼井朋包名誉教授は平成3年1月11日、京都の自宅で急性呼吸不全のため他界されました。お正月休みは奥様とニュージーランド旅行に元気で行ってこられたことを思えば余りにも突然のことで、信じ難いことでした。

先生は、昭和22年京都大学医学部を御卒業になり、小児科の研究者として京都大学で永らく研鑽を積まれ、昭和45年5月、広島大学医学部小児科の3代目の教授として着任されました。

当時は大学紛争のさなかで、小児科も人材不足でしたが、その真摯な学究的姿勢と信念は迫力と魅力に満ちたものであり、たちまち

若い有能な医局員が集まり、いち早く教室の教育、臨床、研究体制を整えられたものでした。

私は当時、関連病院に出張中でしたが、週一回のカンファレンスに出席し、先生の物事の本質、病態の核心を突こうとする姿勢に感動したものでした。

そのような先生ですから、本邦で最初の慢性肉芽腫症（好中球の殺菌能異常による先天的な致命的疾患）を発見され、更に好中球機能の研究で多大な功績をあげられました。

残された私どもは、先生の教えを守り、先生の御魂を慰めたいと思います。